

令和2年度「青森県攻めの農林水産業賞」収益力強化部門大賞受賞 ～おとべ農産合同会社（東北町）～

東北町のおとべ農産合同会社（代表社員 乙部英夫氏）が令和2年度「青森県攻めの農林水産業賞」収益力強化部門で大賞を受賞しました。やまのいも「ネバリスター」や加工用キャベツなど商社と連携した販路開拓による売上げ向上、スマート農機導入による農作業省力化、法人化による労働力の確保と経営規模の拡大などにより農業経営を発展させたことが高く評価されました。



表彰を受けたおとべ農産合同会社 乙部氏（左）

令和2年度「青森県いきいき男女共同参画社会づくり表彰」 女性のチャレンジ賞受賞 なたねの会（横浜町）

横浜町の産直組織である「なたねの会」は、女性の視点による様々なアイデアを活かし、出荷が難しい会員から集荷するサービスのほか、高齢化する地域のために移動販売等の新たなサービスを開始するなど、地域の活性化につながる取組を実施しています。その結果、会の販売額が伸び、20代の若い会員が新規加入するなど、会に活気が生まれ、地域経済の発展にも大きく貢献している点が高く評価されました。



表彰を受けた「なたねの会」村田氏（左）

新嘗祭に精粟を献穀

東北町の農業経営士 乙部英夫氏が、農作物の収穫を祝う宮中行事「新嘗祭」に供えられる「精粟」の献穀者に選ばれ、丹精込めて育てた精粟を10月に宮内庁に献上しました。

乙部氏は、最先端の大型機械を駆使し最先端の露地野菜経営を実践していますが、粟の栽培は、無農薬栽培で、「は種」から「収穫・選別」まで全て手作業で丁寧に行いました。

残念ながら、新型コロナウイルスの影響で献穀献納式が中止となり、直接皇居まで精粟を持参することはできませんでしたが、10月29日には東北町役場を訪問し、蛭名町長に献穀を無事終えたことを報告しました。



東北町長に献穀を報告する乙部氏（奥）



収穫直前の粟

新たな土づくりの匠の紹介

青森県では、高度な土づくりをリードし、県内生産者の模範となる高度な土づくりに取り組む生産者を「あおもり土づくりの匠」として認定しており、令和2年度は六ヶ所村の沼端光広氏が認定されました。上北管内で認定された匠は26名となりました。



沼端 光広 氏

①六ヶ所村 ②ながいも、ごぼう、だいこん
③土壌診断による適正施肥、堆肥の施用及び緑肥を取り入れた輪作体系を導入し、土づくりに意欲的に取り組んでいるほか、ながいも栽培講習会では自身のほ場を講習会場として提供し、地域における土づくり技術の普及に尽力している。

① 市町村 ② 品目 ③ 活動の内容

かみきた楽農通信

第57号
令和3年 2月 2日発行

上北地域県民局 地域農林水産部

○ 農業普及振興室
青森県十和田市西十二番町20-12
TEL：0176-23-4281
FAX：0176-25-7242

○ 農業普及振興室三沢分室
青森県三沢市東岡三沢1-1-7
TEL：0176-53-2498
FAX：0176-53-8539

ホームページ

🔍 上北農業普及振興室 で検索



ごあいさつ

** 農業普及振興室長 加藤 寿男 **

昨年は、水稻の作況指数が「105」のやや良で、野菜の販売価格も堅調でしたが、新型コロナウイルス感染症の拡大により、牛肉の外食向け食材の販売不振や外国人実習生の来日困難による労働力不足、研修会やイベントの自粛など管内農業も大きな影響を受けました。

新型コロナウイルスの感染拡大が未だ収束しない状況ではありますが、関係機関・団体と連携しながら、引き続き上北地域の農業振興に努めて参りたいと考えておりますので、本年もよろしくお願いたします。



六ヶ所村の梅木修司さんが「令和2年度大日本農会農事功績表彰」で 緑白綬有功章（農事功労者）を受章

公益社団法人大日本農会では、農事改良の奨励または実行に関して功績が顕著であった方々の表彰事業を行っており、令和2年度は、六ヶ所村の梅木修司氏が緑白綬有功章（農事功労者）を受章しました。

梅木氏は、乳用牛を約100頭飼育する酪農家です。牛群検定を活用した個体管理など、地域に先駆けて乳用牛の改良に取り組んだほか、その取組を地域の酪農家にも広げていったことで、六ヶ所村や東北町を中心とした酪農地帯の乳量・乳質向上に大きく貢献しました。また、大学生や就農希望者の研修受入など、人材の育成や確保にも尽力されたことなどが高く評価されました。



令和2年12月9日 知事への受章報告



梅木修司氏（中央）、妻・美喜子氏（左隣）

農業普及振興室の主な活動の報告

「上北そば」の知名度向上と消費拡大に向けた取組

上北産そば（「上北そば」の名称でPR）の活用と地域活性化を図るため、上北地域のそば生産者や製粉・加工業者、JA、行政機関等で平成26年6月に上北そば活用推進協議会を設置し、これまで、そば新品種の栽培現地試験や加工適性試験、そば打ち体験等による消費者へのPRなど、様々な活動に取り組んできました。

今年度は、新たな取組として、「上北そば」を使用したメニューや商品を提供している飲食店等を「上北そば」認定店として認定する「上北そば」認定店認定制度を創設し、令和3年1月までに14店舗を認定しました。また、認定店と協力し、新そばまつりを開催することで消費者に広く「上北そば」のPRを行いました。

これからも「上北そば」の知名度向上と消費拡大に向けて、認定店と協力しながらPRしていきます。



「上北そば」をPR



「上北そば」認定店認定証交付式①



「上北そば」認定店認定証交付式②

十和田市一本松集落における共助・共存の農山村づくり

十和田市南東部に位置する一本松集落では、地元公民館で集落内の女性が中心となり月2回「いきいきサロン」を開設しているほか、地域の転作組合が水田農業の担い手を育成していこうとしています。

このような中、一本松集落では、市や農協、弘前大学等の関係機関とともに、3つの分野（生活分野では「いきいきサロン」の常設化、営農分野では水田農業の担い手育成、地域全体では地域の交流人口拡大）について、月1回の座談会を開催し、課題の洗い出しや検討を重ねてきました。



営農マップづくり

このほか、弘前大学大学院の平井太郎准教授を講師に、共助・共存の農山漁村づくりについて理解を深めたほか、生活分野及び営農分野では、郷土食や集落営農に係る視察研修を行いました。

今後は、集落の目指す将来の姿を将来ビジョンとしてまとめていく予定です。



共助・共存の農山漁村づくりの勉強会

加工・業務用野菜の生産拡大に向けて

JAおいらせでは、平成26年度から加工・業務用キャベツの契約栽培に取り組んでおり、令和元年度は生産者50戸、栽培面積6.9haで、更なる生産拡大に意欲的です。

このため、農業普及振興室では、加工・業務用キャベツの生産拡大に向けた課題等について関係機関と意見交換するとともに、連携してキャベツ収穫機の導入による省力効果、水田転換畑での高うね成形による排水対策の実証を行いました。その結果、省力効果と増収効果を確認することができました。

また、キャベツの収穫に係る省力機械の実演会を開催したところ、省力効果や実用性について、出席者から高い関心が寄せられました。

コロナ禍で国産の加工・業務用野菜需要が高まる中、今後の生産拡大が期待されます。



キャベツ定植作業（高うね）



キャベツ収穫機の実演



高うね成形機の実演

スマート農機を利用した露地野菜栽培の省力化に向けて

GNSS（GPS）を利用した自動操舵システムやドローンによるセンシングなどのスマート農機は、労働力不足に対応する技術として注目を集めています。

当地域では、ながいものトレンチャー耕に利用するために自動操舵システムを導入する経営体が多くなっています。しかし、スマート農機は導入コストが高く、導入効果や費用対効果などの情報も不足しています。

このため、農業普及振興室では、スマート農機の実演会を開催し、導入効果について情報共有したほか、スマート農機を導入した場合の経営試算をまとめた資料の作成に取り組んでいます。

さらに、国庫事業「スマート農業技術の開発・実証プロジェクト」の活用により大規模露地野菜生産における自動操舵トラクタ等のスマート農機を利用した省力作業体系の実証に取り組んだほか、比較的規模の小さい水田転作野菜生産においても自動操舵トラクタの実証に取り組みました。



ワイドスプレッダーによる可変施肥作業の実演



実演会の様子



自動操舵トラクタによるネギの植え溝形成作業



自動操舵トラクタによるにんにくのうね立てマルチ張り作業